

# 令和7年度 秦野精華園平塚大根地区生活ホーム地域連携推進会議 報告

日時: 令和7年11月26日(金) 10:00 ~ 12:15

場所: 希望の丘はだの 地域交流ホール

出席者: 近隣特養施設長、地元自治会長、家族代表、利用者代表、

司会進行 担当課長(管理者)

サポート 秦野精華園園長、希望の丘はだの施設長、地域生活支援課課員3名

## 1. 開会および趣旨説明

担当課長(管理者)より、地域連携推進会議の趣旨および今後の流れについて説明がなされた。

## 2. 出席者自己紹介・施設長挨拶

出席者個々の自己紹介後、希望の丘はだの施設長より、本会議設置の背景について以下の通り挨拶があった。

「近年の障がい者施設運営において、サービスの質の確保が重要な課題となっている。施設運営が閉鎖的になることを防ぎ、外部の視点を取り入れることで透明性を高めたい。障がい者が地域や職場で自分らしく安心して暮らせる体制を構築するため、今年度より本会議の開催および構成員による事業所見学が義務化された。これを通じてさらなる質の向上を目指したい。」

## 3. ホーム見学(ももくり、モアガーデン、ドリームハウス)

各ホームを巡回し、生活環境の見学を実施した。(内覧の承諾のあった方々の居室を見学)

### ももくり(利用者代表の居室等):

- 居室内の壁やクローゼットにメモ紙が規則正しく貼られている様子を見て、見学者より「非常にきれいに整頓されている」と感心の声が上がった。
- キッチンや食堂の家庭的な雰囲気を確認。見学者からの「入浴頻度や騒音」に関する質問に対し、毎日入浴していることや、生活音は聞こえるものの気になるレベルではないことが共有された。

### モアガーデン(S氏の居室等):

- 「普通のアパートと遜色なく、よく整頓されている」との感想があった。水回りや電化製品を含め、自立した生活感がある点を確認した。

### ドリームハウス(T氏、および転居予定の利用者代表の居室等):

- T氏の居室にあるゴルフバッグ等の趣味の品々を見て、個人の嗜好が尊重されている点に高い関心が寄せられた。

## 4. 事業報告(ホーム見学後、交流ホールにて)

担当課長より、平塚大根地区生活ホームの運営状況および、直近のヒヤリハット事例について報告を行った。

## 5. 質疑応答および意見交換

### 【高齢者施設との比較と職員配置について】

- 近隣特養施設長: 各ホームを拝見したが、非常に家庭的な雰囲気で驚いた。高齢者施設(老人ホーム)は集団生活の色彩が強いが、こちらは個人の生活空間が確立されており、良い意味で施設らしさがない。一方で、利用者一人ひとりの障がい特性やルーティン、こだわり(整理整頓など)に合わせた個別対応は、職員にとって非常に負担が大きいのではないかと。日中、職員がホームに常駐していない時間帯もあるようだが、複雑なシフト管理や突発的な対応への苦勞が察せられる。

- **施設側:** ご指摘の通り、個別のこだわりや生活リズムを尊重することは、グループホーム運営の根幹であると同時に、支援の難しさでもある。限られた人員の中で、いかに「管理」ではなく「生活のサポート」に徹するか、日々試行錯誤している。

#### 【外国人労働者の雇用状況について】

- **近隣特養施設長:** 深刻な人手不足対策として、高齢者福祉の現場では外国人労働者の雇用が一般化しているが、こちらの法人ではどうか。
- **施設側:** 現時点では雇用していない。知的障がい者支援においては、言葉のニュアンスや、利用者固有の非言語的なサイン、細かな生活習慣(ルーティン)の把握が極めて重要となる。現在のところ、高いコミュニケーション能力と文化的背景の理解が求められるため、慎重に検討している段階である。
- **【移動支援と余暇の充実について】**
- **近隣特養施設長:** 地域生活を送る上で、外出などの「移動支援」はどのように担保しているのか。
- **施設側:** 当園に「居宅介護課」を設置した大きな目的の一つが、グループホーム入居者の余暇支援である。平日は仕事(作業所等)に従事している利用者が多いため、主に休日の外出支援として同課のサービスを活用している。これにより、職員の配置が手薄になりがちな週末でも、利用者が希望する場所へ安全に外出できる体制を整えている。

#### 【地域とのつながりについて】

- **地元自治会長:** 近隣住民としても、こうしたホームの様子を具体的に知る機会は貴重である。地域の中で共に暮らす一員として、今後も情報共有をお願いしたい。

以上